

ユニット 1-A : インド的世界観 (ver2.5)

ねらい

古代インド人の世界観は東南アジアはもとより東アジアにも大きな影響をもたらした。このユニットでは、仏教とヒンドゥー教の世界観および仏教の六道説について概観する。

1. 仏教の世界観

世界の構造

- 風輪（高さ 1,600,000 由旬）（仏教の 1 由旬=約 7km）
- 水輪（高さ 800,000 由旬）
- 金輪（高さ 320,000 由旬）（水輪と金輪の境界が金輪際）
- 須弥山（しゅみせん、1 辺 80,000 由旬、方形）
- 7 つの山脈（方形）
- 四つの州（dvīpa、大陸、州）：東：勝身州（しょうしんしゅう）、南：瞻部州（せんぶしゅう=閻浮提、えんぶだい）、西：牛貨州（ごかしゅう）、北：俱盧州（くるしゅう）。東→南→西→北。
- 鉄圍山（てっちせん、円形）

瞻部州の構造

- 瞻部州、閻浮提（えんぶだい、Jambu-dvīpa）
- ジャンブ jambu（フトモモ科 *Syzygium samarangense*）3~5cm の果実。
- 台形（2,000 由旬×3 辺、3.5 旬）
- 雪山（ヒマラヤ山脈）、無熱惱池（むねつのうち）
- ガンジス河、インダス河、オクサス河、シーター河
- 東：銀牛口、南：金象口、西：瑠璃馬口、北：玻璃獅子口
- 香醉山（カイラーサ山）
- 東：遮末羅島（しゃまつら）、西：筏羅遮末羅島（ばつらしゃまつら）

須弥山

- 須弥山（しゅみせん、Sumeru、=Meru、妙高山）
- 高さ：16 万由旬（水面下に 8 万由旬）
- 幅：方形、1 辺 8 万由旬。
- 頂上：三十三天（Trāyastriṃśa、忉利天）の住みか。中央に帝釈天（Indra）の宮殿（殊勝殿）。四隅の峰に各 8 天、計 32 天。注意：「天」は神の意と神々の住居（天界）の意。
- 中腹：四天王とその眷属の住みか。
- 四天王：東：持国天、南：增長天、西：広目天、北：多聞天（Vaiśravaṇa、=毘沙門天）
- 太陽、月は須弥山の周りをめぐる。
- 空中宮殿（vimāna）：須弥山の上空に、覩史多天（Tuṣita、兜卒天）の住みか（将来仏である弥勒菩薩が住む）など 21 の天界がある。
- [参考] 仏教の三界（さんがい）：欲界、色界、無色界からなる。1) 欲界は欲望にとらわれた生き物の世界。人間、動物、餓鬼、地獄の住人、阿修羅、神の一部（四天王、三十三天、覩史多天を含む 6 天）が住む。2) 色界は物質的制約はあるが欲望を離れた世界。四禪天（計 17 天）が住む世界。3) 無色界は欲望も物質的制約も離れた禅定の段階。空無辺処から非想非非想天までの 4 天がある（物理的な位置はない）。「三界火宅」

地獄

- 地獄（naraka、奈落）は瞻部州の地下に位置。

- 八熱地獄：統活、黒繩、衆合、号叫、大叫、炎熱、大熱、無間
- 副地獄：128
- 八寒地獄

2. ヒンドゥー教の世界観

世界の構造

- 「ブラフマー神の卵の殻」
- ジャンブ州（円盤状）：直径 100,000 由旬（ヒンドゥー教の 1 由旬=約 15km）
- ジャンブ州を囲む 6 つの大陸と 7 つの海（ドーナツ状）。(第 4 の海がサルピス Sarpis 海)
- メール山：ジャンブ州の中央にそびえる黄金の山。高さ 84,000 由旬、頂上部の直径 32,000 由旬。
- メール山の北側と南側にそれぞれ東西に走る山脈が 3 つずつ。山脈の間に国。
- メール山頂：ブラフマー神 (Brahmā、梵天) の都城。
- その八方にローカパーラ（護世神）の都市：東：インドラ神 (Indra)、南：ヤマ神 (Yama、閻魔)、西：ヴァルナ神 (Varuṇa)、北：クベラ神 (Kubera, =Kuvera)、南東：ヴィヴァスヴァット神 (Vivasvat)、南西：ソーマ神 (Soma)、北西：アグニ神 (Agni)、北東：ヴァーユ神 (Vāyu)。
- 最南端の山脈：ヒマヴァット山脈 (Himavat、=ヒマラヤ、Hima-ālaya)。
- 最南端の国：バーラタ国 (Bhārata)。バラタ (Bharata) の子孫の国。南を弧とする半円形。南北の幅 9,000 由旬。インド共和国の正式名称。
- 地下世界：7 層。阿修羅のなかま (Dānava、Daitya など)、夜叉、竜などが住む。
- 地獄：28 地獄
- ヒンドゥー教の三界：天界 (svarga)、地上界 (pṛthvī)、地下界 (pātāla)。

3. 仏教の六道（ろくどう、=六趣、ろくしゅ）：六つの生命形態

- 輪廻（りんね）転生 (saṃsāra)
- 天道、人間道、修羅道、畜生道、餓鬼道、地獄道。
- 天=神。帝釈天、梵天など。
- 修羅=阿修羅 (asura)
- [参考] 八部衆：天 (deva)、竜、(nāga)、夜叉 (やしや、yakṣa)、乾闥婆 (けんだつば、gandharva)、阿修羅 (あしゅら、asura)、迦楼羅 (かるら、garuḍa、=金翅鳥)、緊那羅 (きんなら、kiṃnara)、摩睺羅迦 (まごらが、mahoraga)。
- [参考] 四天王：東：持国天、南：増長天、西：広目天、北：毘沙門天（多聞天、Vaiśravaṇa ←クベラ）
- 輪廻転生の原動力：業（ごう、karman、行為）
- 善因楽果・悪因苦果

参考図書：今回の講義のテーマに関わるもの

1. 定方 晟. 1973. 『須弥山と極楽』(講談社現代新書) 講談社.
2. ————. 1980. 『仏教に見る世界観』(レグルス新書) 第三文明社.
3. ————. 1985. 『インド宇宙誌』春秋社.
4. ————. 2011. 『インド宇宙論大全』春秋社.

1と2はインドの仏教における世界観、3はインドのヒンドゥー教における世界観を取り上げている。4は同一著者による著作の集大成。